

脳神経外科(頭痛専門医)

頭痛専門外来のお知らせ(第2報)

頭痛専門外来 1年半を迎えて



頭痛学会専門医：寺坂 薫医師

「頭痛くらいで病院に行くのは気が引ける」「市販薬で何とかしている」という声をよく耳にします。しかし、繰り返す頭痛の中には治療を要する病気が隠れていることがあります。頭痛は決して軽い症状ではなく、仕事・学業・家事など、日々の生活を大きく左右する重要なサインです。

私は2008年に日本頭痛学会認定の頭痛専門医となり、前任地の呉共済病院で16年間、1500人以上の患者さんを診療してきました。当院でも頭痛専門外来を開設して1年半、200人以上の頭痛の患者さんと向き合う中で、頭痛の種類之多さと、その方に合った治療を選ぶ大切さを改めて実感しています。

外来で多いのは片頭痛や緊張型頭痛ですが、検査によって動脈解離、脳腫瘍、副鼻腔炎、薬物乱用頭痛、睡眠時無呼吸症候群など、原因が明らかな頭痛が見つかることもあります。

「ただの頭痛」と思って受診されたことが、大きな病気の早期発見につながるケースも少なくありません。



倉敷記念病院

医療法人 昭和会

頭痛治療はここ4年で大きく進歩しています

抗CGRP関連抗体製剤（2021年登場）

月1回の注射で片頭痛発作を抑える治療法で、自己注射も可能です。当院でも50例以上に使用し、多くの方が「生活が楽になった、人生が変わった」と実感されています。

従来の内服治療が中心となりますが、抗体製剤を追加することで、重症の頭痛患者さんでも約9割の方が良好な状態を維持できています。

ラスミジタン（2022年発売）

片頭痛発作時に用いる新しいタイプの内服薬で、従来のトリプタン製剤と異なり血管を収縮させないことが大きな特徴です。

心血管疾患のある方やトリプタンが使いにくかった方でも使用しやすい治療薬として注目されています。眠気などの副作用に注意が必要ですが、これまで治療選択が限られていた方にとって新しい有力な選択肢となります。

リメゲパント（CGRP受容体拮抗薬）

2025年12月16日に発売の注射薬に変わる内服薬で、発作時の頓服薬だけでなく予防薬としても使用可能です。注射が苦手な方や従来薬が合わなかった方にも新しい選択肢となります。

私からのメッセージ

私自身も片頭痛に悩まされてきましたが、この新しい治療薬を体験し、その効果の大きさを実感しました。「頭痛は我慢するものではない」「治療すれば必ず変わる」と強く感じています。

「たかが頭痛」と思わず、ぜひ一度ご相談ください。専門的な診断と新しい治療で、これまでより過ごしやすい毎日を取り戻すお手伝いできれば幸いです。



2025年12月吉日

お問合せ：倉敷記念病院 医事課 TEL 086-465-0011



倉敷記念病院

社団法人 緩和会